

文京人



東京都立小石川中等教育学校

文京人インタビュー

ほんごろう街クラブさんに聴く

まち歩きや人との交流を通じて地域の魅力を再発見し、まちづくりに貢献する



岡村幸二さん

「ほんごろう街クラブ」は、
どんなきっかけで
生まれたのですか？

岡村幸二 文京区の景観づくり審議会の
区民公募委員を務めたことがきっかけで
す。委員会に出て意見を述べたり、「文の
京景観賞」の選考に携わったりする中で、
いろんな発見や出会いがありました。任

期が終わる頃、「これで終わるのは寂しい」
「この経験を何かに活かしたい」と思って
いたところ、同期の区民委員だった三宅
さんも同じことを考えていらっしまった
のです。

三宅あき子 私はバブル期に千代田区か
ら文京区に越してきました。以前住んで
いた街は地上げでオフィス街に変わって

しまいました。文京区には昔の街並み
が残っていて、良い景観をつくろうと頑
張っている人たちがいることを知り、私
も何かやりたいと刺激を受けたのです。
「たてもん応援団（文京歴史的建物の活
用を考える会）」というNPOを主宰し
ている松塚昇さんなど同好の士をお誘
いして、2011年の春に5、6名で会
がスタートしました。現在は10名数で活

動しています。

どんな活動を されていますか？

岡村 私たちは会の名前どおり、文京区の中でも旧本郷区の本駒込、白山、千駄木を中心に活動しています。主な活動内



三宅あき子さん

容は、みちとまちをより深く知るための「まち歩き」と、地域の古老から昔のまちの様子を聞き取る「地域の昔かたり」、オリジナルの「散策マップ」の作成です。本郷通りや白山通りは江戸時代、五街道の一つの中山道で、参勤交代のルートとして栄えました。千石一丁目交差点のあたりには駕籠屋が軒を並べていたことから「駕籠町」と名が付き、昭和46年まで都電が走っていました。散策マップには、そんな街の歴史も紹介しています。

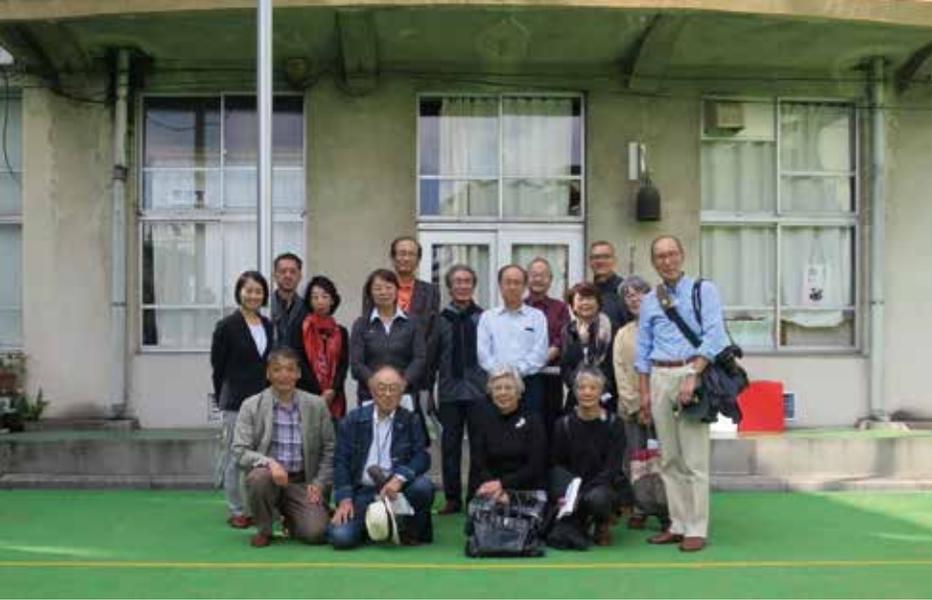
三宅 月1回、会員が集まって定例会議を開くのですが、雑談の中からみんなの思いがまとまって活動に発展していくことが多いですね。例えば、我が家にあった『本郷の寺院』という本の中に江戸の安政時代の手描き地図が収録されていたんです。この地図を会議で見せたところ、「この場所をみんなで歩いてみよう」という話になり、まち歩きを実施したり。「○せねばならぬ」と縛るのではなく、みんなが自由に意見を言い合うと、面白い



千石商店街で旧大下水の水跡を辿る



音羽通り背後の旧水窪川の水跡を辿る



改修される前の明化小学校の見学会を実施

化学反応が起きるんですよ。

岡村 そうですね。何か一つの目的があつてこの会を作ったわけではありませんが。まち歩きをする中で、地域のご老人に昔のことを語ってもらおうとか、歩いて調べた成果を盛り込んだマップを作つ

てみたいな、といったふうに活動が形になっていきました。多様性を前提に、会員それぞれの「ああしたい」「こうしたい」という意見を尊重しながら、地域のなりたちや大切な風景を再発見する活動を続けてきた感じですね。

会が発足して今年で13年目ですね。長続きの秘訣はありますか？

三宅 「この土地が好き」「自分たちが住む地域をもっと知りたい」というワクワクする気持ち、一番大事なことだと思います。会員には私のような主婦だけでなく、岡村さんのような都市計画コンサルタントや建築家の方もいらつしやいますが、みなさん地域愛がすごい。この情熱には打算が入っていないですから、長く活動を続けても飽きないのです。

岡村 活動の間隔があいているのも、仕事をもっている人でも負担なく続けてこ



第20回文の京景観賞（景観づくり活動部門）受賞記念

られた理由の一つかもしれません。

活動を続ける中で、ご自身にどんな変化がありましたか？

三宅 極端に言えば、人生観が変わりましたね。文京区に住むまでは「地域に根付く」という発想がなかったんです。文

これまでに、3種類の「中山道マップ」が作成されている。文京区観光協会にて200円で販売中。



京区は歴史がミルフィューユのように、縄文時代や弥生時代から江戸時代、関東大震災、戦中戦後、そして現在と、土地の記憶が積み重なっています。地域の一員として、この街が大好きですし、その魅力を次世代にも伝えていきたい、と思うようになりました。

岡村 さまざまな区民の方と知り合い、自分の興味の幅が広がりました。私も三宅さんと同じく、地域愛に目覚めました。

今後の抱負についても、お聞かせください。

三宅 昨年の秋、駒込天祖神社の「いちちょう祭り」に参加し、マップを販売したんです。この祭りは、地域の有志の方々が、子どもたちの思い出に残るよう

な催しをしたいと企画したものです。実行委員会や祭りに遊びに来た人たちと交流し、私たちも街づくりの一端になれたらいいなと思いました。

岡村 ほんごう街クラブの仲間内だけではなく、他の地域グループともいろんな形でコラボをしていきたいですね。



「文京人」編集部と一緒に

ほんごう街クラブ

✉ hongoumc@gmail.com



代表飴細工師 初代吉原屋

株式会社あめ細工吉原

吉原孝洋さん

見て 触って 味わって
江戸伝統工芸飴細工の世界

団子坂の近代的な森鷗外記念館の隣に、小粋で古風な間口の吉原飴細工店はあった。

暖簾をくぐりタイムトンネルを抜けるようにオレンジ色の薄明りに誘われると、江戸伝統細工菓子飴細工の世界へ。

売店と奥には工房がある。工房では店長の吉原さんが何やら白いドロツとした液体を練っている。熱々の白い原液（煮詰めた砂糖に空気を混ぜた晒し飴）を棒に取り、絡め練っては伸ばし握りハサミで切れ目を入れ色付けし形が整うと、み

るみる生命を宿す。花になったり、うさぎだったり、小鳥に変身し羽ばたくよう。まさに神技だ。飴細工は江戸時代より連綿と引き継がれてきており、現代でも縁日などのパフォーマンスなどで私たちの目を楽しませてくれている。

実は、イタリア料理のシェフを目指していたという吉原さん。夢を叶えるべくイタリアに修行の旅へ。挫折を繰り返す中、逆に日本人としてのアイデンティティに目覚めたという。心象風景に浮かんだのは子供の頃に祖母と見た飴細工の

わくわく感と好奇心。本当にやりたいことはこれだったのかもしれないと膝を打った。

帰国するや早速飴細工の職人に弟子入りすることに。そして、その難しさに試行錯誤を繰り返しつつ、オリジナリティを極めていく。諦めなかったのは子供の頃に見た飴細工と宝ものように育んだ祖母との思い出かも知れない。年齢を重ねても吉原さんの心の中には当時の飴細工が息づいている。現在は、そんな思いを共有したいと子供たちにワークショップを開催している。

不思議そうに飴細工の工程を見守る子供たちの笑顔は吉原さんにとってもモチベーションになっていく。これは容易に想像できる。とは言え、鉄は熱いうちに打てという言葉があるが、飴も同じで冷めて固まってしまう前に短時間で形を整えなくてはならない。見ているほどには簡単にはいかない、と苦笑する。工房を見渡すと、オリジナルキャラクターの「あめぴよん」がいる。初めて作ったのがうさ

ぎだったことに由来する。以来、工場の守護神だ。先頃イタリアでオリエンタルフェアに参加し、パフォーマンスを披露して来たという。イタリア料理人の肩書ではなかったが、飴細工師として日本の



かわいいうさぎのあめ細工「あめぴよん」

伝統文化を海外に紹介できることが嬉しいと目を輝かせる。

食品衛生許可を持ち実店舗を出したかったという夢も果たした。団子坂の地で店を構えて15年。団子坂は文豪たちが住み着いた街であり、江戸から令和へと連綿と引き継がれる飴細工の技は吉原さんの登場でさらにパワーアップしたようだ。今後が気になり聞いてみると、次のフェーズに入ったことを確信した。後継者として女性飴細工師が誕生していたのだ。さらに、自ら日本飴細工協会（会員

12名）を設立、初代会長に就任。コロナ禍を経験する中、全国に100人ほどの飴細工職人との連携も期待している。飴細工の手間と苦勞を伺うにつけ、もつたいなくて食べられないという気持ちになるが、お菓子なので食べて下さいと言う。食べて無くなっても吉原さんの原点が祖母との思い出に導かれたように、ほんのり甘い思い出は脳裏に残り続ける。その思いを次世代に繋げてほしいという吉原さんの職人魂が神々しい。

取材者…木下佳子



あめ細工吉原

〒113-0022

文京区千駄木 1-23-5

巴ビル1F

☎03-6323-3319





Be-rin (ビーリン) が イベントをお手伝い



小日向2丁目の文京総合福祉センター2階にある、地域活動支援センター「マイポジション」には知的障がいのある若者たちが通っています。ここでは、障がいのある方に対し、創作的活動や生産活動の機会の提供、地域社会との交流や余暇の充実を図る支援が行われています。日頃は施設内で作品づくりをしたり、ダンスや太鼓の練習や披露、建物周辺の清掃等をしています。その一環として、3年前に「Be-rin」(ビーリン)という名の障がい当事者ボランティア

障がい当事者ボランティアを ご存じですか？

アグループが立ち上がりました。現在、ボランティアへの適性があり、やりたいという意欲のある男女33名程度が所属しています。メンバーは依頼があれば、職員とともに出張してイベント運営などを手伝います。地元の小日水町会こひずみちょうかいの方々、彼らを好意的に見守ってくれています。「Be-rin」も行事がある時は手伝うなど、お互いに



助け合っています。昨年9月も町会からの依頼で、小日向神社の祭礼のお手伝いに行き、「よくやっていたいただきました」と感謝されました。障がい者の活躍の場が広がるのはうれしいことです。このような関係性ができるまで



Profile



丸山耕史さん
小日水町会副会長。2年前に就任。祖父の代からこの地に住み、地元を愛する方。



矢郷節子さん
小日水町会青年部員。お祭りや餅つきを5年以上手助けしている。青年部の町会活動に熱心な方。

のいきさつを知りたいと、担当された町会のお2人に、その時の様子や感想を聞きました。

「Beirin」との
出会いは

丸山 年末の町会の餅つきの日に「マイポジション」の若者たちやスタッフの方々が見学参加されたのが縁でした。町会の祭礼や餅つき等の大きな行事では人手が足りないなので、協力していただけないかと話が進んだのです。

具体的にどの
ようなボラン
ティアを依頼
していますか

丸山 「Beirin」の若者たちには、行事を運営する側の一員として、様々なことをお願いしています。例えば、「小日水縁日」でのゲームコーナーの補助やお菓子配り、参加の列に並ぶ人に、プラカードを



持って「ここが最後尾です」と伝える役目などです。この縁日は大盛況で1000人位来場者がありました。19名のボランティアたちと一緒に頑張って



張ってやり遂げました。

矢郷 子供たちにお菓子を渡す時、「Berin」の方はおまけしてあげたりするので、喜ばれていました。

障がい当事者ボランティアの方々と、どのように接していますか

丸山 手伝ってほしいことの説明を丁寧にしたたり、相手の意見もよく聞くようにするコミュニケーションが大事だと思います。あとは、彼らを信頼してまかせます。

このように町会の行事を障がい者が手伝っている町会は他にないと思いますが、これからいろいろなことを協力していただく等、良い関係性を続けて行きたいです。

来場者は障がい者に戸惑うこ



インタビューの様子

ともあるかもしれません。この関係を続けていくことで障がい者との接点が多くなり、徐々に理解されていけると信じています。

矢郷 町会のメンバーだけでは

人手不足な部分もある中、お手伝いくださって本当にスムーズに準備や運営、そして片付けが出来ています。一緒に仕事をすすめる上で配慮が必要なものもありますが、彼らは人の役に立ちた



超えた理解が深まることを期待しています。

丸山 障がい者を信頼し、積極的にコミュニケーションを取ることが大事だと思います。皆さまが障がい当事者ボランティアに関心を持ってくださり、垣根を超えた理解が深まることを期待しています。

障がい当事者ボランティアを頼みたい方へのアドバイスを願います。

いという純粋な気持ちで、こちらがお願いしたことを楽しそうにやってくれます。



自分のために 人のために ぼくらにできることを



「Be-rin (ビーリン)」は前号でご紹介いただいた駄菓子屋での販売業務の他にも、様々なボランティア活動をしています。

例えば、福祉センターの地域交流イベントでの太鼓演奏やダンスの披露、手作り品の販売、各種講座のスタッフ(会場のセッティングや片付け、講師の補助)などです。好評とのことで何度も呼んでいただいたり、感謝や励ましのお言葉をいただくことも多々あり、とても嬉しく感じています。

令和6年度から、「Be-rin」はNPO法人「地縁の輪」

の所属となって活動していくこととなりました。これからも「たくさんボランティアに行きたい!」という彼らの活躍を応援して下さい。

ボランティアのご依頼を心よりお待ちしております。ぜひ、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

NPO法人 地縁の輪 Be-rin (ビーリン)

担当者: 岡部

TEL 03-5940-2882

Be-rin
after team

■ 表紙の写真

1918（大正7）年に小石川区駕籠町で創立された東京府立第五中学校（男子校）は、空襲で校舎が焼失し、移転したこともありま
す。1949年から男女共学となり、翌年に
東京都立小石川高等学校と改称。現在の校舎は
1994年に改築されたものです。

そうして2006年には中高一貫校の東京
都立小石川中等教育学校として生まれ変わ
りました。創立からの教育理念は、今も引き継
がれ、詰め込み受験教育ではなく自ら究める
力・自らを律する精神・科学する研究心を育
ててきました。

最近では、国際理解教育にも力を入れてお
り、3年生は全員オーストラリアにホームス
テイするそうです。また、ドイツ語、フラン
ス語、中国語を第2外国語として選択するこ
ともできます。

■ 写真提供（敬称略）
ほんごう街クラブ（本文）
NPO法人Beirin（ビーリン）

Café Tweedia

〒112-0013 文京区音羽 1-2-18 1階
TEL:090-7555-0866



地域のだれもが気軽に
立ち寄れる場所です。
コーヒーやジュースなど
400円程度
インスタ始めました！



広告募集

文京人に
広告を掲載しませんか

詳細は編集部までメールで
お問い合わせください。

文京区の人と地域をつなぐ情報誌

文京人（ぶんきょうじん）第六号

題字：上村正子

企画編集『文京人』編集部

発行：NPO法人 地縁の輪

発行日：2024年6月30日



お問い合わせ先：

社会福祉法人武蔵野会

文京福祉センター江戸川橋

電話：03-5940-2901

edogawabashi@team-lien.com



無断転載禁止

職員募集

リアン文京は多世代の方に
ご利用いただく福祉の
都市型複合施設です。
ご利用者と笑顔になれる職場で
一緒に働いてみませんか？
ぜひお問合せください。



リアン文京は、
NPO法人地縁の輪と一緒に
文京の地域に貢献していきます。

社会福祉法人武蔵野会 リアン文京

〒112-0006 文京区小日向 2-16-15 ☎ 03-5940-2822 03-5940-2823
担当：野村・渡部 <https://team-lien.com>